

目指す学校像	季節の花と明るい挨拶にあふれ、生徒一人ひとりの夢と生きる力を培う学校 —大好き TAIHEI—
--------	---

重点目標	1 「学びの指標」とICTを活用した基礎学力の向上 2 生徒指導・教育相談体制の充実を図り、生徒が安心・安全に過ごせる学校環境づくり 3 保護者・地域等とのコミュニケーションを基にした、コミュニティ・スクールの効果的教育活動の展開 4 生徒・保護者・地域から信頼される教職員に向け、指導力向上と資質向上
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 目 標		年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
年 度 目 標		年 度 評 価		年 度 評 価		実施日令和6年2月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○学校評価「自分は意欲的に授業に取り組んでいる」の設問に対する肯定的な回答が90%を超えている。 ○市学習状況調査において「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用して授業に取り組んでいる」の問いで、使用頻度が市の平均よりも高い。 (課題) ○令和5年度学校評価保護者アンケートで「お子さんは基礎学力が身に付いている」の設問に対する肯定的な回答が80%には達していない。 ○市学習状況調査において「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の問いで、やや課題が見られるため、さらに高めたい。 ○市学習状況調査において「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の問いで、やや課題が見られるため、さらに高めたい。	・タブレット型PCを活用した授業実践 ・データ活用等による授業改善 ・世界に開かれた窓としてのICTのより効果的な活用を通じた幅広い学習方法の充実	①情報を収集し適切に要約したり、説明したりすることに教科等で取り組む。 ②データの可視化とデータ蓄積による個別最適な学びの授業に取り組む。 ③スタディサプリやドリルパーク等の活用、課題への取組を積極的に取り入れ、生徒が目標をもって学習することで、基礎学力の向上を図る。 ④教員相互の授業観察を通じての学びあいによる、教員の授業力を向上させ、基礎学力の向上を目指す。 ⑤「学びの指標」のアンケートの実施し、授業実践の課題把握による、授業力の向上と指導方の改善を行う。 ⑥全国及び市の学習状況調査の結果の分析による、生徒の課題の克服に取り組む。	①学校評価「自分は基礎学力が身に付いている」の設問に対する肯定的な回答が80%以上となったか。 ②学びの指標「ICTの活用」で0.3ポイント向上することができたか。 ③調査結果の分析を行い「学びの指標」のアンケートを実施し、授業改善の視点、手立てを設定することができたか。	①学校評価における生徒の肯定的な回答の割合は84.4%であった。 ②学びの指標「ICTの活用」で0.1の上昇であったが、前年度の市のよりも高い数値であった。 ③学びの指標アンケートを1、2学期に1回ずつ実施することにより4つの指標を意識することで、数値の向上が見られ授業改善に繋げることができた。 ④市教委より講師を要請し、学習状況調査の分析の研修を行った。無回答の生徒についても減少している。	B	・個別最適な学びを実現するため、スタディサプリからの課題配信を継続して活用していく。 ・学びの指標アンケートを今後も継続して校内において実施し、授業改善に繋げ、授業力の向上を目指していく。
2	(現状) ○学校評価「自分は楽しく学校生活を送っている」「自分は命の大切さを考え、健康や安全に気を付けた生活をしている」の設問に対する肯定的な回答が90%を超えている。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる生徒のけがは0件、緊急搬送は1件、アレルギー緊急対応は0件だった。 (課題) ○生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○生徒の潜在的な心のゆれを早期に把握し、きめ細やかな支援を、組織的に行う必要がある。 ○校舎の老朽化による雨漏りがあるため、校内の設備への影響が課題である。	・校内の生徒指導・教育相談・特別支援体制の充実 ・生徒が安心・安全に過ごせる学校環境の美化・整備	①校内における生徒指導部会及び教育相談部会で、生徒の関する情報共有と対応方針を検討・実践し、個に応じた指導を行う。 ②障害等による学習上、生活上の困難がある生徒に対しての適切な支援方法、具体的な教職員の言動について研修を行う。 ③「心と生活のアンケート」や「スクールダッシュボード」学校独自の「いじめアンケート」を実施し、随時実施する教員との面談によって、個の実態の把握に努める。 ④さわやか相談室や「Sola る一む」の活用による長欠傾向にある生徒へのかかわりを深める。	①様々な生徒の課題に、校内委員会を中心に、迅速かつ的確に対応し、その取組を保護者や関係機関と適切に連携することができている。 ②長欠生徒が前年度と比較し、減少の傾向となったか。	①学校評価における「悩みや相談事に親身に応じる」において、肯定的な回答の割合は生徒95.1%、保護者86.5%と高い数値であった。講師を招致し、人権やユニバーサルデザインの研修を行った。 ②減少することはできなかったが、相談機関と連携することや、Sola る一むの活用を進めることができた。	B	・今後も、生徒や保護者に丁寧な説明と寄り添った言動を心掛け、地道に信頼関係を構築していく。 ・発達心理、児童心理についての知見を深め、教員の価値観を一方向的に示すのではなく、コーチングの姿勢で生徒、保護者対応にあたる。 ・Sola る一むの活用について工夫・改善を行い、多くの生徒の居場所を確保していく。
3	(現状) ○本校学校運営協議会を通し、「心をつなごう 手をつなごう」というキーワードを共有した。本年度はボランティア活動の推進により一層積極的に取り組む。 (課題) ○昨年度に引き続き、目指す生徒像について、学校・家庭・地域全体で共有できるようにする。また、生徒に身に付けさせたい力については、今年度も、実現に向けた方策を定めていくことが課題である。 ○新しい「開かれた学校づくり」をいかに実施していくかが課題である。	・本校の学校運営協議会及び教育活動の積極的な情報発信 ・継続的な取組に向けた「泰平中コミ・スク成長プラン」の策定と行動	①大きく変化する学校教育に係る説明機会を創出するなど、地域に開かれた学校づくりの一層の推進。 ②地域や保護者に学校の様子を多く公開することで、目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。	①学校評価「学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に行っている」の設問に対する肯定的な回答が90%以上となったか。 ②安全対策を取りながら、年間5回以上、学校公開を行ったか。	①学校評価における保護者の肯定的な回答の割合は87.3%であった。 ②年間14回公開し、情報モラルの向上を図るために、スマホ・タブレット安全教室に保護者の方にも参加できるようにした。	B	・保護者・地域に、生徒・教職員の取組を積極的に公開し、学校運営を周知していく。
4	(現状) ○ICTを積極的に活用し、協働的な学習を取り入れることにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組んでいる。 ○教職員の世代交代が急速に進む中、特に、若手教職員に対する育成を積極的に進めている。 (課題) ○様々な教育課題に適切に対応できるよう、実践的な校内研修が必要である。 ○スクールダッシュボードの活用による、学習面、生活面における指導による授業改善や情報共有による組織的な支援の推進。	・教育DXに向けた「シン・GIGAスクール構想」の確実な実践及び「よい授業」づくり	①年間を通して組織的に、教職員の授業内容やICT活用能力の資質向上に取り組む。 ②教科横断的に授業実践等を見合い、学びあい、共有し、教員の授業力を高める ③多様な生徒に対応した指導に向け、ICTを活用した授業実践及び有効な活用手段を共有し、教員の資質を高める。 ④学びの指標やよい授業のシステムを活用した授業づくりを目標に掲げ、管理職による全職員の授業参観及び指導・助言を行う。 ⑤研修主任と連携した、校内研修の企画や管理職による服務規律に関する校内研修を計画的に実施する。	①学校評価「わかりやすい授業をしている」の設問に対する肯定的な回答が90%以上となったか。 ②「学びの指標」に関するアンケートの2回の集計結果での学習課題をふまえて、自分が解決することを自分で決めているが、前年度より向上しているか。 ③研修履歴を活用し、一人最低1回は研修を受けたか。	①学校評価における生徒の肯定的な回答の割合は95.5%であった。 ②「学びの指標」に関するアンケートの2回の集計結果において、前年度より0.36ポイント向上していた。 ③講師を招致しての研修を2回や管理職による服務規律の研修、生徒指導研修等を計画的実施することができた。	B	・ICT機器の効果的な活用も含め、教職員の指導方法を改善及び充実させる必要がある。また、より一層、教職員一人ひとりの資質の向上に努めていく。 ・より一層、指導方法を工夫・改善し、「分ける授業」を目指し、個々の教師の指導力向上に努めていく。 ・研修の目的を明確にし、教職員の資質向上に努めていく。